

21世紀にキリストを生きる

21世紀にキリストを生きる

「神の国」が近づいた！

＜北インド、ウッタール・プラデシュ州でのダリット尊厳回復の働き3年での実＞



00年代後半、人口12億になるインドの経済急成長のニュースが流れるたびに私の脳裡を横切ったのは、ニュースでは伝えられない、社会慣習制度のために最貧困層として取り残されていく3億人以上の人々の姿だった。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。」3千年以上も前、非人間的に扱われていた民のうめきと叫びを聞かれた神は、今も地上で非人間的に扱われる人々のうめきを聞いておられる。すべての民の身代わりとなるために地上に送られ、私も従うイエスの父である神が、インドの底辺の人々のうめきに痛むご自身を私にも表してくださったように思えた。神はご自身の方法で救い出そうと、時を待っておられた。

2010年、インドで私が関わったグループのメンバーで、人間とみなされなかったダリット（抑圧された人々＝元不可触民）出身のラムスラットさんの願いを思い出した。仲間の子も達が教室でバカにされずに教育を受けられ、奴隷のようにではなく、人としての尊厳をもって働く場があり、その報酬として生きるのに必要な賃金を得て「普通の人」として生きられる社会を築きたい、という願いを。

神が状況を整えてくださり、2010年10月、社会慣習制度の課題を理解し、その変

革を願っているひとりの牧師とラムスラットさんは活動を始めるため、日本の私たちに協力を求めた。それが、北インドでの「ダリットの尊厳回復」プログラム、からし種としての働きの始まりだった。

ラムスラットさんは、ヒンズーのものの見方に漬かっているダリットの人々に最も大切な見方を取り戻して欲しいと願っていた。永遠のいのちを保証してくださったイエスは、善い意志を持つ宇宙の創造者である父によって遣わされた、その意志どおりに人生を歩まれたことを原点とする見方だ。善い意志を持つ創造者は人間を階層ごとには造られなかった。すべてのひとは「神にかたどって創造された」のである。ここに、決して他者が侵害できない人間の尊厳がある。かけがえがないのだ。これがダリットの人々の「尊厳回復」の原点だとラムスラットさんは確信した。インド社会の制度が裏づける人間観と「神にかたどって創造された」人間観を比較し、日々の人間関係や非人間化された生活を変えるための実践を励ますセミナーを展開し始めたのだ。

この働きが始まり3年が経つ今年9月、1年ぶりに現地を訪問した。最近まで長い



間、闇が覆っていたような北インドでは、近年、真実の方イエスに出会う人が多く起こされている。様々な不安からアルコール中毒だったバズバードさん(前ページ写真)もその一人。2年前にイエスに出会って平安を取り戻ただけでなく、今までダリットとして誰の迷惑にもならないようにひっそり生きてきたが、セミナーを数回受けて大きく変えられたという。自分を蔑んできた周りの人たちに前に「カースト制度は人間ではなく、動物のものだ。」と大胆に宣言し、聖書の神は人間をどのように造ったかを語るようになり、驚かされているようだ。「人間でなかったような以前の自分でなく、本当の人間として新しい自分になったみたいだよ。」と微笑んでくれた。

ラムスラットさんの現地協力者、キショル牧師はこの3年間を次のように振り返った。この社会は、一握りの祭司階層が国や地域の政治、経済、教育、メディアなどの権力を握り、彼らが最大の受益者となる制度を固守する「ブラミニズム」という差別的階級維持体系であることを理解することができた。聖書の視点への置き換えを教会のメンバーに教え、またその生き方をみなで実践することで、今まで祭司階層に抱いていた恐れが消え、多くの人の歩みがとても積極的なものへ変化してきた。このように振り返るキショル牧師にこれからのビジョンを尋ねた。すると「この郡のほかの教会の人たちにぜひ、このことを理解してそれぞれの場で適用してほしい。私もできる限り協力したい。そうすればイエスが語られた「神の国」が郡全体に広がると信じている。」と語った。「自分のところだけが大きくなる必要はない。」という。「神の国」の本質を学び、心から従おうとするキショル牧師の思いを聞きながら、この地に「神の国が近づいた！」と心から主をほめずにいられなかった。真実の神の働きかけと多くの方々の祈りと協力によって、からし種

から始まった「神の国」が成長している！

＜オディシャ州での人と社会の変革、2年9か月の働きの実＞

北インドに引き続き、ほぼ定刻！で走る寝台列車に27時間揺られて(インドは広大です！)、オディッシャ州山奥の活動地に向かった。今年9月に発表されたインド全



28州の総合開発指標で、残念ながら最下位にランクされたオディッシャ州。そのうちの3つの最貧困郡のひとつでパートナー

団体が活動している。この開発指標を知り、神様が、私たちをインドで最も貧しい地域に導かれたことにあらためて気がつかされた。オディッシャ州は2008年にキリスト教会への厳しい迫害が起こった地でもある。ここでも、聖書の神様が底辺で呻く人々にどれほど心を傾け、痛みを感じておられるかを思わされた。21世紀の現代も、神の思いを理解するキリスト者たちを神はご自分が心に留める苦難に喘ぐ人々のもとへ送られる。オディッシャの山奥で見捨てられたような村人たちを思う心を与えられていたひとりが町で暮らすナヤク姉であり、私たちが3年近く前、協力へと導かれた方だ。

町から車で50分ほど。そこから川を徒歩で渡り私の足で1時間以上かかる。2年9か月前の訪問時は乾期だったので飛び石づくたいに渡ることができたが、今回の訪問は雨期の終わり。増水している川を腿まで浸かって渡ることになった。耳で聞いていた現地の人々の日常生活を体験した。現地



の人々は滑らないように川底の石をうまく
 選びながら身軽に1-2分でわたっていく。
 が、私には準備から始めて20分近くかか
 る大ごとの!?川渡りだった。

たどり着いた村の様子は前回と違って
 いた。日本の協力で立てられた小さな簡易学
 習教室の前には、整然とした耕作地が広が
 っていた。聞けば、昨年自治体が腰を上げ
 て農業訓練が始まり区画整理が行われたそ
 うだ。より多くの収穫が見込まれている。
 以前町に住んでこの働きに関わっていたス
 リヤ牧師は、昨年、町の生活をあとにして
 電気も水道もない近くの村に引っ越してき
 た。山奥の地に専念して聖書の神を伝えよ
 うと決心したためだ。2年9か月前には40
 ほどの家族の村には一人もキリスト者がい
 なかったが、今、20人以上になっていた。



2011年にナヤク姉に与えられた思いに共
 感を覚え、日本の教会の枝として「声なき
 者の友」の輪がナヤク姉の導く現地の小さ
 な団体エベネゼルのパートナーになり、学
 習支援や女性の自立グループ支援が始まっ
 てから村全体が変えられた。子どもたちは
 身ぎれいになり整然と学んでいた。さらに
 話をしているうちに、近隣40の村連合体
 の代表に選挙で選ばれた村出身のカミショ
 ールさんが現れた。話を聞くと2011年末
 にイエス様を信じ、昨年洗礼を受けたとい
 う。イエス様を信じてから地域の人々のた
 めの働きをしたいと願うようになったそう
 だ。そして代表選に出馬する決意をし、27
 才の若さで当選。昨年10月から40の村の

代表の役を担っている。この国では汚職が



はびこりやすい行政の仕事にどのように取
 り組んでいるかを質問した。学び始めた聖
 書の原則を適用し、リーダーの自分が汚職
 の疑惑を受けないようにプロジェクトの判
 断は会議を招集し議員たちと行う。上から
 の圧力もあるが、賄賂を要求されない状況
 作りを心がけている、という。

来年には村人の長年の夢だった橋がかか
 り、ついに外の社会とつながる予定だ。

これらの話を見聞きしながら「神の時」
 に「神の国」が前進することを思わずにい
 られなかった。「神の国」は、人がイエス
 を受け入れるだけにとどまらない。また、一
 人の人の献身的な働きだけで進むのでもな
 い。神が主権をもちご支配されるとは、イ
 エスをすでに信じた人も、まだ信じていな
 い人や組織（きっと、これから信じる人）
 も、神のご計画で用いられ、人々が生かさ
 れそれぞれのユニークな能力が用いられ、
 人と地域が神の願う方向へと変えられるこ
 となのだ。キリストが神の知恵であり義と
 聖と贖いであることが実現していく。「『誇
 る者は主を誇れ』と書いてあるとおりで
 す。」心からアーメンと思った。

「ここは、神がご支配されている！」私
 たちは、日本でもどこでもインドで起きて
 いるこの状況を聖書の歴史の神はなされる
 のだ、と信じた生き方をしているだろうか。
 自分のやり方ではなく、この神に期待して
 いるだろうか。私たちに問われているのは
 そのことだ、と今回のインドの訪問が教え
 てくれた。

キリストの花嫁、聖なる都の住人になる日を待ち望んで

＜結婚式に招かれる＞

イエス様は、主に従う者の歩みを婚宴に招待される者にたとえた話をされている。イエスに従うように招かれた人々の旅路の到着地が、どれほど歓喜にあふれたものかを示すためなのだろう。10月に私は、バングラデシュ奉仕以来18年にわたる大親友、韓国人スファンの結婚式に招待された。昨年、福島訪問に参加されたバンクーバーの神学校の先生と結婚に導かれたのだ。その司式のメッセージ者は、今、米国のパートナー団体で私たちに聖書の世界観を教え続けてくれたダロー氏だった。ヨハネの黙示録からのメッセージでは、当時のユダヤの世界観！から始まり、現代で婚宴に招待されるとはキリストの花嫁である全世界の教会の一員として、花婿として待つイエス様と完全に結ばれる日に向かって私たちがであることを想起させ、それを一瞬だが味わうときののだと語ってくれた。この旅路の到着地は、神と共にいる喜びと平安を全身全霊で味わい続ける永遠のときののだ。そのことに心から感動する結婚式だった。カナダのバンクーバーで行われた結婚式には、スファンのお母さんを始め、韓国の友人、親戚、そしてたくさんの北米の友人たちが集まった。彼女のリクエストでインド・バングラデシュの伝統服を着て、日本人の私が韓国人スファンの花嫁介添え役を果たした（写真：青のドレスのスファン、チマチョゴリのお母さん、私）。なんという「神の国」の前味だったことだろう。



「人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る。」聖なる都の住人になるその日まで、「神の国」のためにこの地上でのいのちを皆さまと共に捧げる、大切な一日一日を過ごしていることを心から思いながら。

「お祈りください」

- **神様の働きが大きく進むインドの2つの働きの2014年の恵みと導きのため**
- **準備を始めている2014年の新しい働きのため**

「神の国」を教え生きるために、飼い葉おけから人生を始められたイエス様のご降誕を祝う季節が近づいてきました。イエス様の姿にさらに変えていただくために、主の人生を思い巡らす恵みのときを心からお祈りいたします。皆様のお祈りとご支援で、主のお働きを変わらずにご一緒させていただき幸いを心から感謝して。

柳沢 美登里

2013年11月20日

「声なき者の友の輪・Friends with the voiceless International (FVI)」の働きのために、お祈りとご支援をよろしくお願いいたします。活動報告は随時、ホームページ <http://www.karashi.net> でご覧いただけます。

郵便振替：名称 FVI 口座番号 00180-0-300201

柳沢へのご支援は「柳沢支援」と明記ください。領収書は振込票で代わりとさせていただきます。ご了承ください。主の働きを共にさせていただき恵みを感謝して。